

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成22年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2871300451		
法人名	特別医療法人 敬愛会		
事業所名	ひかみシルバーホーム		
所在地	丹波市氷上町絹山1 (電話) 0795-80-2777		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成21年12月22日	評価確定日	平成22年2月4日

【情報提供票より】(平成21年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	8.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	375 円
	夕食	465 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(11月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大塚病院 佐竹歯科医院
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人敬愛会が運営するグループホームの一つである。ホームは、2009年4月1日に新しくオープンした大塚病院(一般病棟、医療療養型、介護療養型病棟をそなえ、地域密着型医療を推進している)の敷地内にあり、最大限の医療支援を受けることができ、安心して暮らせるホームである。地域の利用者が多く、家族の訪問も頻繁で自宅で暮らし続ける感覚で生活している。利用者一人ひとりの自主性を重んじ、人生の大先輩として尊敬し、心のもったケアを実践している。特に地域との交流を大切にし、保育園・小学校はもとより自治会の行事にも積極的に参加し、地域の一人として認識されている。管理者はグループホームと特別養護老人ホームの違いを地域の人に説明し、グループホームは家庭の住まいと同じであることを認識してもらうよう心がけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価課題について改善計画シートを作成しており、全職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。職員を育てる取り組み、日常的な外出支援等一定の成果が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は全職員で前向きに取り組む、サービスの質の向上につなげている。第三者評価においても、指摘された項目について具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議には市職員・自治会長・家族代表・併設病院職員等8名の参加があり、ホームの現状や課題を相談し合っているが、今年度は1回のみの開催となっている。運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な場でもあるので、概ね2ヵ月に1回以上定期的に開催することが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	近隣の利用者が多く、家族の面会時に近況を報告している。2ヵ月に1回グループホームの暮らしぶりやエピソード等をホーム便りとして送付している。家族には何でも言ってもらえる雰囲気作りを心がけ、家族会も開催し、ホーム内に意見箱も設置しているが、家族からの要望・苦情は出ていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	自治会に加入している。地域の自治会が協力的ですべての行事に招待され、積極的に参加することで地域の人とのつながりができ、保育園や小学校との交流もしっかり定着している。小学校の子ども達にホームに遊びに来てもらい、利用者と一緒に昔の遊びを楽しむ計画を立てている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程の中には、地域や家族との結びつきを重視するとの記載があるが、地域密着型サービスの役割が理念の中には反映されていない。しかし、地域の関係性強化の取り組みは行っている。		事業所独自の理念を作成しているが、グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられ、地域住民との関係がより重視されるようになったことから、地域の一員であるという認識を理念の中にも記載することが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員の目の届きやすい所に掲示し、職員一人ひとりが携帯している。日々のサービス提供場面で十分反映されている。理念の内容について、今後管理者と全職員が検討し、現状にあった理念に作り変えていく予定である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会が協力的で、文化祭等すべての行事に招待され参加することにより、近隣とのつながりが密になった。保育園の園長が散歩途中で声をかけてくれたりする。小学校との交流もしっかり定着しており、子ども達に遊びに来てもらい、利用者と昔の遊びを一緒に楽しむ計画を立てている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で前向きに取り組み、サービスの質の向上につなげている。第三者評価においても改善計画シートを作成し、指摘された項目について具体的な改善に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には、市職員・自治会長・家族代表・併設病院職員等様々な人が参加して、現状や課題を相談し合っているが、今年度は1回のみ開催となっている。</p>		<p>運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な場でもあるので、概ね2カ月に1回以上定期的開催することが望まれる。また、可能であれば、利用者本人の参加実現にも期待したい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者とは、運営上の課題や制度改正等について気軽に相談できる関係を築いている。また、県の丹波認知症疾患医療センターが併設病院の中にあり、市職員も訪れることから、その時を利用して連携を取るようになっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームの近隣に居住していた利用者がほとんどで家族の面会頻度も多く、その都度利用者の近況報告をしている。利用者の預かり金は毎月1回金銭管理明細書を手渡している。2カ月に1回暮らしぶりや利用者のエピソード等ホーム便りで送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には何でも言ってもらえる雰囲気作りを心がけ、家族会も開催している。意見箱はグループホーム玄関の面会カードの横に設置しているが、家族から要望や苦情は一件も寄せられていない。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の施設間で職員の定期異動が行われている。急な異動や交代は極力抑えているが、やむを得ない場合は、時間をかけて利用者に関わることによって、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に基づき運営母体の医療法人が実施する研修会や講習会には、パート職員を含め全員出席している。外部研修にも積極的に参加し、個人的な資格を得るための配慮も行っている。研修記録は法人内で保管し、研修内容を確認できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年立ち上げた丹波市内の4つのグループホームネットワーク会議を定期的に3カ月に1回持ち回りで開催している。事例検討を通して体験や意見交換を行い交流を深めることにより、お互いのサービスの質の向上を目指している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時家族から生活歴等の情報を得ているが、本人に安心してもらうために職員一人ひとりが関わり、本人と職員の間関係を築いてから本格的な利用に移っていけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩であると常に尊敬の念を持つようにしている。わらじ作り・野菜作り等利用者の得意分野で教えてもらう場面もあり、支援する側・される側という意識を持たず、お互い支えあう関係を築いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの希望の把握に努め、把握した思いや意向は最大限尊重している。意思の疎通が難しい人には、顔の表情や手を挙げる等をする行動から思いを汲み取り、利用者の訴えを待つケアの実践をしている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意向や希望を反映した介護計画を作成している。作成にあたっては担当職員・かかりつけ医・看護師等の関係者の意見も聞きながら、計画作成担当者がまとめている。また、アセスメントを含め、全職員で意見交換やモニタリング・カンファレンスをしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3か月に1回行い、利用者の状況や状態、入院等の変化があればその都度検討・見直し、現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制として法人内の訪問看護との契約や併設病院の医師による定期的往診、緊急的対応等で早期にホームで医療処置を受けることができる。また、設立時より空居室がある場合は、ショートステイを受け入れている。家族が通院介助ができない時、本人や家族の希望に沿って柔軟に対応している。丹波認知症介護者の集いの会場にホームを使用してもらっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>すべての利用者のかかりつけ医は併設病院の医師である。定期受診を月1回行い、結果は利用者家族に伝え、情報の共有を行っている。また、利用者の変化や心配事がある場合、その都度相談できる関係を築いている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について利用者の意向を尋ね、家族が納得するまでホームの方針について話し合っている。最終的には家族と併設病院と連携を取りながら、対応し得る最善のケアを心がけている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は人生の先輩である利用者を尊敬し、丁寧な言葉づかいで対応している。また、職員研修やカンファレンスの席で、プライバシーの尊重や個人情報の取り扱いの注意を徹底している。ホーム便りの発行の際には、利用者の了解を得てから利用者について記載するようにしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝起きるのが早い人、朝ゆっくり起きる人など利用者のペースで対応している。また、食事や入浴についても基本的な時間帯はあるが、細かい決め事はせず、利用者の希望に沿うように配慮しながら柔軟に支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、併設病院と合同で避難訓練等を実施している。地域の消防団とも連携が取れており、協力が得られる環境にある。今年はホーム独自の夜間訓練を実施したが、避難誘導のあり方に課題が残った。		ホームでの出火を想定した避難訓練や夜間の災害時にも利用者が確実に避難できるよう、引き続き夜間訓練を実施することが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回管理栄養士による栄養指導が行われている。一人ひとりの健康状態を把握できるよう、食事量・水分量・入浴・運動・睡眠等毎日チェック表に記録している。糖尿食等個人にあった食事等について、専門的な観点からチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は天井から陽光が入り、フロアの季節感のある飾り付けは利用者と共にしている。共有の畳の間にはホームコタツが置かれ、要所にはソファやイスが配置されており、心地よい音楽も流れ、居心地よい居場所となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して、持ち込むものに制限はなく、利用者の好みや馴染みのものを持ち込んでいる。仏壇・神棚等大切なものを傍に置くことで安心して過ごせる居室となっている。また、入口にはリースが飾られ、のれんをくぐって入るなど、家庭的な雰囲気居心地のよい居室となっている。		

 は、重点項目。